

第7章 国際交流

I 留学・研修

大学の国際交流は、学問にかかわる人と情報・技術などの交流を基盤としている。人の交流は、教員によるものと学生によるものとに大別できる。また、学術交流協定などによる交流もある。

本学の教員については、学会発表などのための短期の海外滞在が多いが、2015年度（平成27）に教員の資質向上及び教育研究の発展を目的に、国内外での長期研修（原則3か月以上1年以内）を認める学外特別研修制度を創設した。これまでの利用実績を資料7.1に示す。また、本学における教員等の資質向上、学術研究の進展・活性化を図るため、学外から本学へ受け入れる学外研究者の受け入れ状況を資料7.2に示す。これらの多くは、本学の教員等と共同研究等を行うために学外から受け入れる特別研究員や特定の研究プロジェクトを推進するために臨時に雇用する特別研究教授、特定助教及び特定研究員に分けられる。

学生による交流としては、海外からの留学生受け入れが挙げられる。受け入れ留学生の数は資料7.3に示すように、近年は増加傾向にあり、国籍別では中国からの受け入れが最も多い。なお、外国人は、一般選抜と異なり、外国人留学生特別選抜によって入学試験を受けることができる。2011年度（平成23）より、中国遼寧省の瀋陽化工大学との学生交流協定に基づく交換留学を行っている。瀋陽化工大学から学部レベルの特別聴講学生を1年間受入れている。2017年度（平成29）からは大学院（博士前期課程）レベルの特別聴講学生を1年半受入れている。

学生の海外派遣としては、協定校である瀋陽化工大学へ2011年度（平成23）より夏期休暇中の約3週間学生を派遣している。2014年度（平成26）からは米国オレゴン州のポートランド州立大学が実施する語学研修に春期と夏期の年2回参加している。また、海外企業研修として、2012年度（平成24）から富山県主催（大連YKKジッパー社協力）中国大連での企業実務研修へ、2014年度（平成26）から北陸銀行主催中国大連トレーニー研修へ本学学生が参加している。学生の海外留学・研修プログラムへの参加状況を資料7.4に示す。比較的長期の海外滞在としては、資料7.5に示すように、日本学生支援機構の海外留学支援制度（協定派遣）を利用した派遣や、文部科学省の留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」の奨学金を利用して留学する学生もいる。

II 学術交流

1998年（平成10）10月に本学工学部と米国アラスカ州のアラスカ大学との間でロケット実験による宇宙空間科学及び技術開発の推進等に関する学術交流協定が締結されて以降、資料7.6に示すように、2019年度（令和元）末現在で9ヶ国16の機関と学術交流協定を締結している。また、うち10件は学生交流協定も締結しており、これらの取組みにより、海外の大学等と、研究者の交流、専門分野における共同研究、情報交換、学生交流等を図っている。